

教宣 せぶん

情報の共有

6月28日の株主総会での模様・発言内容、当日の行動の様子が、大阪分会の教宣誌から流れてきました。「行動」があることは知っていましたが、どんな内容だったのか、どんな様子だったのか、まったく伝わってこなかっただけに、大阪分会の代表者のレポートは貴重でしたし、ありがたいものでした。

そもそも、分裂以後の私たちの組織の「売り」は何だったのでしょうか。「団結の強さ」と「情報の共有」だったはずですが。団結はゆるぎなく、事あるごとに強くなっていくと感ずますが、「情報の共有」という点では、いささか物足りなさを覚えてしまいます。今回の行動の様子も、第一報は、本来「NANIWA」から流れてくるのではなく、支部の教宣から報じられるべきで、参加してない者と参加した者の温度差が、それによって埋められるべきだと思います。教宣とは組織内の「情報の共有」という点で、大切な媒介の役割を担っています。大阪分会の代表者が教宣として出した真意は、まさに行動に参加していない仲間とその日の行動のありのままを伝えたいという、素朴な感情だったはずですが。地方分会であるがゆえに、参加していない者の心情がわかっているのではないのでしょうか。第一報の後の第二報として、NANIWAの株主総会号が存在するというのが本来の姿だと思います。

財政的にそれぞれの所在地で、「行動」への取り組みや参加も制約を受けざるを得ないのが現状です。在京の組合員の立場になってみれば、毎月の休日カンパでの取り組み、本当に大変だと思います。頭が下がります。支部執行部はもっと大変だと思います。しかし、参加したくても参加できない者もいることも忘れないでもらいたいと思いますし、「行動」を熱いまなざしで注視している者もいます。一つ、一つの事実や経験を共有して、組織が一枚岩となり、「目的」に向かって歩をすすめていかなければならないと思います。組織が一枚岩になるためには、「情報の共有」は必要不可欠です。「情報の共有」について、みんなでいま一度、考え直してみましよう。